

👉 手話サークル研究班 👈

～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」という気持ちを持っていただければと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆2004・2005年9月の神通研集会・第1分科会「サークル」を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2006年4月現在、川崎3、横浜2、県域11 計16名で活動中。

～ 定例会 ～

地域サークルの様子や情報交換等を行っています。

☆5/21 定例会報告

8/27の集会に向け、着々と準備進行中。

今年度の主なテーマ「手話を始めて気付いたこと、知りたいこと、理解して欲しいこと・・・」。

ろう者との交流や先輩の方たちからのお話を聞く中で、ろう者が今置かれている現状を知ったり、「手話」の奥深さに気が付いたり・・・

神奈川のいろいろな地域の様子を聞きながら、ろう者また手話と向き合ってみましょう!!

【次回定例会】

6月25(日) 13:00～15:00

かながわ県民センター12F・ボランティアコーナー

どなたでもお気軽にご参加下さい。

～ '05年神通研集会 第1分科会報告～

S20～40年頃まで手話は「手まね」という言葉で表され、言語ではないと思われていました。ろう者の基本的人権を主張していくために手話を広めていく運動が広がり、S45年から開始された手話奉仕員養成事業をきっかけに手話が積極的に広まりました。

でも、ろう者にとって運転免許取得時の適性検査、文字情報の不足等、まだまだ様々な問題に直面しています。手話を学びながら、地域の仲間としてサークルに出来ることは何か?ろう者が抱えている問題や解決方法を理解し合うことが大切です。

～サークル研究班メンバーのささやき～

サークルに入りたての頃はなにかと楽しかったのに、最近はその頃のような楽しさを感じなくなった。「サークル」は「ろう者と出会え」、「ろう者と語れ」、そして「共に歩める場」だったはず。「手話塾」でも「手話教室」でもない、それが「手話サークル」。

より良い「サークル」を築くために、この研究会の場はいつも有意義な時間とおいしいお菓子(笑)を提供してくれています。(お茶は自前です)

(ハ～)